

Kitami Institute of Technology

北見工業大学

# 学報

平成15年7月 事務局総務課発行 第198号

## 総合研究棟竣工



(関連記事 23 ページに掲載)

## 目 次

会議報告	全国国立大学工学系学長懇談会 ..... 3 第53回国立大学工学部長会議 ..... 3 第15年度道内国立大学長会議 ..... 4 第112回国立大学協会総会 ..... 4
入試関係	平成16年度入学者選抜要項 ..... 5 平成16年度大学院工学研究科博士前期課程一般・社会人特別 選抜・外国人留学生特別選抜各募集要項.....11 平成16年度大学院工学研究科博士後期課程社会人選抜・外国人 留学生各募集要項.....11 平成16年度編入試験（推薦による選抜）の実施.....12 平成15年度大学院工学研究科秋季入学学生募集の実施について.....13
研究助成	平成15年度 日本科学協会海外発表促進助成金交付決定.....14 平成15年度 実吉奨学会研究助成金交付決定.....14 平成15年度民間等との共同研究の受入状況.....14 平成15年度受託研究の受入状況.....15 平成15年度奨学寄附金の受入状況.....15
人 事	住所変更等、海外渡航.....16
受 賞	原田建治助手 ホログラフィックディスプレイ研究会 「HODIC鈴木・岡田賞」を受賞 .....17 木曾明子先生 エイブルメディア「金杯」を受賞.....18
学 会 等	電気学会半導体電力変換・産業電力応用合同研究会開催 .....19
諸 報	父母との懇談会（春季）開催.....19 第34回北苑祭.....20 平成14年度奨学・奨励金授賞式.....21 「平成14年度教育優秀者賞」表彰式及び「教育優秀者」に よる公開授業 .....22 総合研究棟完成.....23
規 程	北見工業大学電気工作物保安規程の一部を改正する規程.....24
日 誌	5月・6月.....33

住所変更等については7月23日まで掲載しました。

## = 会議報告 =

### 全国国立大学工学系学長懇談会

日 時：平成15年5月14日(水)・15日(木)  
当番校：鳥取大学  
出 席：常本学長

#### 協議事項

##### 1) 法人化後の学長選考について

本年10月に統合する大学を中心に、学長選考方法などについて意見交換があった。任期は6年間とする方針の大学が多く、中期計画6年サイクルの最後の2年からスタートするような制度が良いのではないかとの意見が出された。

教職員の意向調査については、意向調査を行わない大学から、助手以上の教員、講師以上の教員、一部職員を含んで投票するなど、大学間の違いが大きかった。

##### 2) 専門職大学院(MOT)について

専門職大学院についての検討状況が紹介された。大きな大学では実施段階に入っているが、現在の修士との違いをどのようにするか、どのような資格が得られるかなど問題もある。ただ、分野によっては需要もあり、例えば海事、知的財産、環境、工業デザイン、建築、原子力等の分野で検討が進んでいる。

##### 3) 大学間統合の進捗状況

参加大学の中で統合計画が進んでいる6大学から、現在の問題点などについて報告があった。統合が近づくと実務レベルでの摩擦も増えてくる。文化の異なる統合には一時期やむを得ないことのようなのだ。特に、学生のキャンパス間移動の制度化、本部機能と職員の配置などでの合意が難しいようだ。一方、共同研究の進展、センターなどの設置、大学院の充実などのメリットもあるなどの報告があった。

次年度当番校・・・岩手大学

### 第53回国立大学工学部長会議

日 時：平成15年5月15日(木)・16日(金)  
当番地区：中国・四国地区  
当番大学：香川大学工学部  
出 席 者：鮎田副学長、道谷総務課長

##### 1. 文部科学省からの説明

高等教育局吉村専門教育課長補佐から平成15年度の予算主要事項として、個性輝く大学づくりの推進(21世紀COEプログラム、特色ある大学教育支援プログラム)及び、国立大学の再編・統合の動きなどについて説明があった。

##### 2. 協議事項

国立大学の法人化移行に関する諸課題について

##### 1) 国立大学工学部長会議・総会の在り方について

会議規約を改定し、現行の会議・総会を踏襲していくことが認められた。

##### 2) 法人化とセンター等の見直しについて

学内共同教育研究施設として設置されているセンター等を法人化に向けて、その在り方を見直し再編整備している状況について数大学から報告があり、効率的運用の提案があった。

##### 3) 知的財産の管理の在り方について

平成15年度から「大学知的財産本部整備事業」等により知的財産の創出、取得、管理、活用を戦略的に実施することが大きな柱になることから、法人化後の特許等知的財産の機関管理への移行を踏まえ、各大学の知的財産の管理状況について報告があった。

##### 教員の任期制について

法人化を控え中期目標・計画の策定に際し各大学における教員の任期制の取り組み状況及び問題点について意見交換がなされた。

### 工学系教育の改善について

1) 高質な授業の実施 2) 広い視野で科学技術を捉える工学教育 3) 国際化に対応する英語による教育について意見交換がなされ、これらについてよりよい取組の事例がある場合には後日当番大学へ報告することとなった。

### 産学連携の取り組みについて

共同研究を含めた産学連携の取り組みについて意見交換をしたいとの提案を受け、2大学からTLOとの連携の事例紹介があった。

### 3. 要望事項

文部科学省への要望事項として、法人化に伴い人事院規則に代わって労働安全衛生法が適用になることから、それに対する支援他6点が採択された。

## 平成15年度道内国立大学長会議

日 時：平成15年5月27日(火)

当番校：室蘭工業大学

出 席：常本学長、柴 局長

### 協議事項

#### 1. 道内大学間の連携のあり方について

次のようなことを考慮して連携を進めることとするが、具体は副学長懇談会で協議してもらうこととなった。

- ・戦略的な対応を考える
- ・教育、研究、社会貢献などを含めて検討する
- ・国公私大を含めたことも検討する
- ・当面の課題についても対応する
- ・7大学の枠にとらわれない

#### 2. 法人化後の人事制度について、特に任期制についての取り組みの現状

大学間でかなりの違いがある。総じてセンターなどは任期制、助手についても先行するようである。また、空きポストを活用した任期採用などを実施する。

教員の流動化を考えると全国一斉が望ましいが、活性化の面で任期制は必要との認識であった。

### 3. 法人化後の運営体制について

事務部門と役員会、評議会、協議会、各種委員会の関連について各大学の検討状況が紹介された。2大学が事務局長を置く計画であるとの話があった。一方で、理事の直轄として室を置いて、そこに配置するなどの考えもある。まだ検討に入ったばかりのようである。

次期当番校・・・北海道大学

## 第112回国立大学協会総会

日 時：平成15年6月10日(火)・11日(水)

場 所：国立オリンピック記念

青少年総合センター

出 席：常本学長、柴 事務局長

会長挨拶の後、以下のような報告及び協議が行われた。

### 1. 報告事項

#### 1) 各種委員会報告

この中での特記事項として、第1常置委員会では、中央教育審議会から求められた「新しい時代に相応しい教育基本法と教育振興基本計画について」の意見陳述を行ったこと、第2常置委員会では、平成18年度からの大学入試センター試験に外国語(英語)リスニングテストを導入すること及びセンター試験の全日程を高等学校を試験会場として実施することについて、導入の教育政策上の意味を明らかにすることなどの条件を前提に了承したこと、第7常置委員会では、政府の「知的財産推進計画」に盛り込むべき政策事項についての意見を提出したこと、第8常置委員会では、大学評価・学位授与機構に対し、大学評価についての意見提出を行ったことなどの報告があった。

2. 協議事項

1) 新理事等の選任について

新理事並びに新会長（佐々木東大総長）及び新副会長（石一橋大学長、梶山九州大総長）が選出された。

2) 平成18年度大学入試センター試験について

第2常置委員会委員長及び丸山大学入試センター所長から、平成18年度から大学入試センター試験に外国語リスニングテストを導入したいこと、高等学校を試験会場とする上で、センター試験の信頼性等を損なうことなく実施するため、各国立大学、高等学校、教育委員会及び大学入試センターの実務者による「検討の場」を設けたいこと、「地歴」の問題については引き続き検討していくことなどの説明がありました。

れた。

3) 新国大協（仮称）について

国立大学法人化に伴う新しい連合組織の在り方等について検討が行われた。

4) 平成17年度以降の国立大学法人等職員の統一採用試験について

職員の共通採用試験は、地区単位に実施主体を決めて実施すること、第1次試験は地区単位で統一して実施し、第2次試験は各大学等で実施していくこととなった。

5) 国立大学法人化に関する諸課題について

国立大学協会としては、「最終報告」後の法人化特別委員会におけるこれまでの検討結果及びその理事会での取扱いを了承し、法案成立後に国立大学協会としての見解を出すこととなった。

= 入試 =

平成16年度入学者選抜要項

入学試験の概要

1 試験の実施方式

入学定員を分割し、「前期日程」及び「後期日程」の両試験日程でそれぞれ入学者を募集する分離分割方式で入学者選抜を実施する。〔一般選抜〕

なお、入学定員の一部（60人）について、出身学校長の推薦に基づき、学力試験を免除し調査書を主な資料として判定する推薦入学を実施する。〔特別選抜（推薦入学）〕

また、後期日程の募集人員内で、学力検査を免除し成績証明書、小論文、面接等により判定する帰国子女選抜を実施する。〔特別選抜（帰国子女）〕

2 一般選抜の出願について 略

入学定員（募集人員）

学 科	入学定員	募集人員		
		前期日程	後期日程	推薦入学
機械システム工学科	80人	40人	28人	12人
電気電子工学科	80人	42人	30人	8人
情報システム工学科	60人	25人	25人	10人
化学システム工学科	60人	30人	18人	12人
機能材料工学科	50人	22人	22人	6人
土木開発工学科	80人	32人	36人	12人
合 計	410人	191人	159人	60人

注1 後期日程の募集人員には、各学科とも帰国子女特別選抜の募集人員若干人を含む。

2 推薦入学の合格者が募集人員に満たない場合は、その不足した人員を後期日程の募集人員に加えて募集する。

## 一般選抜

## 前期日程

- 1 出願資格 略
- 2 志望学科 略
- 3 選抜方法

入学者の選抜は、大学入試センター試験、出身学校長から提出された調査書及び健康診断の結果を総合して行う。

## 大学入試センター試験の配点

区 分	教 科	配 点	合 計
センター試験	国 語	50	700
	地歴・公民	50	
	数 学	250	
	理 科	200	
	外国語	150	

大学入試センター試験の受験を要する  
教科・科目

国 語	国、国・から1科目
地歴・公民	地歴または公民から1科目
数 学	数・数A
	数・数B、工数から1科目
理 科	物 A、物 Bから1科目
	化 A、化 Bから1科目
外国語	英、独、仏、中、韓 から1科目

数学（工数）及び理科（物 A、化 A）については、受験出来る者が限定されている。

## 健康診断 略

- 4 願書受付期間  
平成16年1月26日(月)から  
平成16年2月4日(水)まで
- 5 健康診断の期日（該当者のみ）  
平成16年2月24日(火)
- 6 合格者の発表  
平成16年3月6日(土)
- 7 入学手続期間  
平成16年3月8日(月)から

平成16年3月15日(月)まで

## 8 追加合格通知期間

平成16年3月28日(日)から  
平成16年3月31日(水)まで

- 9 身体に障害を有する入学志願者の相談について 略

## 後期日程

- 1 出願資格 略
- 2 志望学科 略

## 3 選抜方法

入学者の選抜は、大学入試センター試験、本学が行う個別学力検査、出身学校長から提出された調査書及び健康診断の結果を総合して行う。

## 大学入試センター試験及び個別学力検査の配点

区 分	教 科	配 点	合 計
センター試験	国 語	50	700
	数 学	100	
	理 科	100	
	外国語	150	
個別学力検査	数 学	200	
	理 科	100	

大学入試センター試験の受験を要する  
教科・科目及び個別学力検査教科・科目  
ア 大学試験センター試験教科・科目

国 語	国、国・から1科目
数 学	数・数A
	数・数B、工数、情報 から1科目
理 科	物 A、物 Bから1科目
	化 A、化 Bから1科目
外国語	英、独、仏、中、韓 から1科目

数学（工数、情報）及び理科（物 A、

化 A)については、受験できる者が限定されている。

#### イ 個別学力検査教科・科目

数 学	数 ・ 数 ・ 数 ・ 数 A ・ 数 B ・ 数 C	
理 科	機械システム工学科	物
	電気電子工学科	
	情報システム工学科	
	化学システム工学科	物、化 から1科目
	機能材料工学科	
	土木開発工学科	

数 A は ( 数 と 式、 数 列 )、 数 B は ( ベクトル、 複素数 と 複素数 平面 )、 数 C は ( 行列 と 線形 計算、 いろいろ な 曲線 ) を 出題 範囲 と し、 選択 問題 を 出題 す る。

健康診断 略

- 4 願書受付期間  
前期日程と同じ
- 5 試験期日及び試験場  
期 日：平成16年3月12日(金)  
試験場：北見工業大学  
\* 志願者が多数の場合、学外試験場(北見市内)も使用する。
- 6 健康診断の期日(該当者のみ)  
平成16年3月12日(金)
- 7 合格者の発表  
平成16年3月20日(土)
- 8 入学手続期間  
平成16年3月22日(月)から  
平成16年3月27日(土)まで
- 9 追加合格通知期間  
前期日程と同じ
- 10 身体に障害を有する入学志願者の相談について 略

#### 特別選抜(推薦入学)

##### 1 募集人員

学 科	募集人員
機械システム工学科	12人
電気電子工学科	8人
情報システム工学科	10人
化学システム工学科	12人
機能材料工学科	6人
土木開発工学科	12人
合 計	60人

##### 2 選抜期日

平成15年12月5日(金)(志願者が多数の場合、6日(土)におよぶ場合もある。)

##### 3 選抜方法

学校長より推薦された者について、調査書、推薦書、小論文、面接及び健康診断の結果を総合して行う。(面接の際、特に自己アピールできる資料があれば、持参すること。)

個別学力検査及び大学入試センター試験を免除する。

なお、事前の書類選抜は行わないことを原則とするが、志願者が多数におよび日程上困難な場合は、事前に書類選抜を行うことがある。

##### 4 出願期間

平成15年11月4日(火)から  
平成15年11月10日(月)まで

##### 5 出願要件

全国の国公私立高等学校若しくは中等教育学校を平成16年3月卒業見込みの者で、高等学校若しくは中等教育学校における学習成績・人物が優れ、健康状態が良好で、かつ、学校長が責任をもって推薦できる者

高等学校若しくは中等教育学校の調査書の国語、数学、理科、外国語の4教科の評定平均値が3.5以上の者

高等学校若しくは中等教育学校において、次の科目を履修した者

国 語（国語）  
 数 学（数学、数学、数学、  
 数学A、数学B）  
 理 科（物理 B、化学 B）  
 外国語（英語、ドイツ語、フランス語  
 中国語、韓国語の内1科目以上）  
 ただし、工学に関する学科、理数科及  
 びこれらに準ずる学科については、上記  
 国語及び外国語のほか次の科目を履修し  
 た者

工業に関する学科

工業数理

数 学（数学、数学）

理 科 総合理科、

物理（A、B）

化学（A、B）

の3区分から2区分にわた  
 り2科目

理数科

理数数学、理数数学

理数物理及び理数化学

及びに準ずる学科については、

その都度出願資格の事前審査を行う。

## 6 合格発表日

平成15年12月17日(水)

特別選抜（帰国子女）

### 1 募集人員

各学科若干人

### 2 選抜期日

平成15年12月5日(金)

### 3 選抜方法

個別学力検査及び大学入試センター試験  
 を免除し、成績証明書等の成績、小論文、  
 面接及び健康診断の結果を総合して行う。

### 4 出願期間

平成15年11月4日(火)から

平成15年11月10日(月)まで

### 5 出願要件

日本国籍を持つ者及び日本国の永住許可  
 を得ている者で、保護者とともに海外に在  
 住し外国の学校教育を受け、かつ、次の

いずれかに該当する者

外国において、学校教育における12  
 年の課程（日本における通常の課程によ  
 る期間を含む。）を平成14年4月1日から  
 平成16年3月31日までに修了した者及び  
 修了見込みの者。ただし、外国において  
 最終の学年を含めて2年以上継続して在  
 学した者

注 文部科学大臣が高等学校の課程に  
 相当する課程を有するものとして指  
 定した在外教育施設に在籍した者に  
 ついては、その期間を外国において  
 学校教育を受けたものとはみなさない。

外国において、スイス民法典に基づく  
 財団法人である国際バカロレア事務局か  
 ら国際バカロレア資格証書を平成14年  
 又は平成15年に授与された者で、平成  
 16年3月31日までに18歳以上となる者

ドイツ連邦共和国の各州において大学  
 入学資格として認められているアビトゥ  
 ア資格を平成14年又は平成15年に取得  
 した者で、平成16年3月31日までに18歳  
 以上となる者

フランス共和国において大学入学資格  
 として認められているバカロレア資格を  
 平成14年又は15年に取得した者で、平  
 成16年3月31日までに18歳以上となる者

## 6 合格発表日

平成15年12月17日(水)

## 平成16年度大学院工学研究科 博士前期課程学生募集要項

### 1 専攻別募集人員

専 攻 名	募集人員
機械システム工学専攻	16人
電気電子工学専攻	16人
情報システム工学専攻	16人
化学システム工学専攻	14人
機能材料工学専攻	10人
土木開発工学専攻	20人
計	92人

### 2 出願資格

次のいずれかに該当する者

大学を卒業した者及び平成16年3月までに卒業見込みの者

学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者及び平成16年3月までに授与される見込みの者

文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号参照）

平成16年3月までに大学における在学期間が3年以上となる者又は外国において学校教育における15年の課程を修了する者で、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと、本学大学院において認められたもの、本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で22歳に達したものの

その他本学大学院において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者（注）出願資格 により願ひ出る者の募集は、平成15年12月上旬に改めて行う。

### 3 願書受付期間

平成15年7月7日(月)から

平成15年7月11日(金)まで〔午後5時必着〕

### 4 出願手続 略

### 5 選抜方法

入学者の選抜は、学力検査、面接、成績証明書及び健康診断の結果を総合して行う。

なお、本学を平成16年3月卒業見込みの者は、本学での学業成績を審査し、学力検査を免除することがある。

学力検査・面接期日

第1日 平成15年8月25日(月)

第2日 平成15年8月26日(火)

学力検査科目及び日時

専攻名	科目	8月25日(月)		8月26日(火)
		10:00-12:00	13:00-17:00	10:00-
機械システム工学専攻	英語	外国語科目	専門科目 必須科目 選択科目*注	面接
電気電子工学専攻	英語	電気磁気学 電気回路	材料力学、機械力学 熱力学、流体力学 機械製作学、制御工学 (6科目のうち3科目選択)	個人
情報システム工学専攻	英語 *注	情報基礎 *注	数理情報工学、応用情報工学 (2科目のうち1科目選択) *注	
化学システム工学専攻	英語	物理化学 有機化学		面接
機能材料工学専攻	英語		材料有機化学、無機材料化学 材料物理化学、材料分析化学 電子材料物性、金属材料物性 (6科目のうち2科目選択)	
土木開発工学専攻	英語		構造力学、水理学 土質工学、応用物理学*注 (4科目のうち2科目選択)	

\* 全専攻とも筆記用具のほか、定規及びコンパスを持参してください。

\* 全専攻とも電卓の使用を認めるので持参してください。

注 各専攻の指定する科目を出願時に選択してください。

注 中辞典程度の英和辞典、和英辞典各一冊持込むことができます。(情報システム工学専攻)

注 出題の範囲は、離散数学、コンピュータアーキテクチャ、データ構造とアルゴリズムの内容を含みます。(情報システム工学専攻)

注 出題の範囲は、次の分野を含みます。(情報システム工学専攻)

数理情報工学:工業数学(線形代数、フーリエ解析)、情報符号理論、制御工学  
応用情報工学:知識工学、人工知能基礎論、デジタル画像処理、C/C++プログラミング(CまたはC++どちらか一方の言語で解答してください。継承は除きます。)  
選択した科目において解答する1分野を出願時に選択してください。

注 雪氷、凍土及び気象にかかわる物理現象から出題します。(土木開発工学専攻)

### 健康診断 略

### 6 合格発表

平成15年9月10日(水)午後5時予定

### 7 入学時に要する経費

入学料 282,000円(予定額)

授業料(前期分) 260,400円

【年額520,800円】(予定額)

入学時及び在学中に納付金の改定が行われた場合には、改訂時から新たな納付金が適用される。

## 平成16年度大学院工学研究科博士前期課程 社会人特別選抜学生募集要項

### 1 特別選抜の趣旨

科学技術の急速な進展と社会情勢の変化に伴い、社会のリフレッシュ教育に対する需要が、近年、急速な高まりを見せている。このような要請に対応するため、企業・官公庁、研究機関、教育機関等において活躍中の社会人を、在職のまま受け入れ、高度な学識の修得と研究・開発能力の向上を図ることを目的として、本研究科に受け入れの道を開いている。選考にあたっては、実務経験に基づく専門知識や技術等を重視し、一般の選抜方法とは異なる特別選抜を実施する。

### 2 専攻別募集人員

専 攻 名	募集人員
機械システム工学専攻 電気電子工学専攻 情報システム工学専攻 化学システム工学専攻 機能材料工学専攻 土木開発工学専攻	各専攻とも若干人

### 3 出願資格

入学時において現に勤務している企業等で2年以上の技術関係業務の経験を有する者で、入学後も引き続きその身分を有し、所属長の推薦を受けられる者で次のいずれかに該当する者

大学を卒業した者

大学教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者

外国において学校教育における16年の課程を修了した者

文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号参照）

本学大学院において、個別の入学資格審

査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で22歳に達したものの  
その他本学大学院において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

### 4 願書受付期間

平成15年7月7日(月)から

平成15年7月11日(金)まで〔午後5時必着〕

### 5 出願手続 略

### 6 選抜方法

入学者の選抜は、個人面接、成績証明書、志望調書、研究計画書、職務経歴書及び健康診断の結果を総合して行う。

個人面接

平成15年8月26日(火)午前10時から

健康診断 略

### 7 合格発表

平成15年9月10日(水)午後5時予定

### 8 入学時に要する経費

入学料 282,000円（予定額）

授業料（前期分）260,400円

【年額520,800円】（予定額）

入学時及び在学中に納付金の改定が行われた場合には、改訂時から新たな納付金が適用される。

### 9 入学後の取扱い

原則として、一般の学生の例による。

ただし、入学後の企業等における身分（現職・休職等）については、当該企業等の定めるところによる。

平成16年度大学院工学研究科博士前期課程  
外国人留学生特別選抜募集要項

1 専攻募集人員

専攻名	募集人員
機械システム工学専攻 電気電子工学専攻 情報システム工学専攻 化学システム工学専攻 機能材料工学専攻 土木開発工学専攻	各専攻とも若干人

2 出願資格

日本の大学において教育を受ける目的をもって入国した外国人で、次のいずれかに該当する者

大学を卒業した者及び平成16年3月までに卒業見込の者

外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び平成16年3月までに修了見込みの者

その他本学大学院において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

3 願書受付期間

平成15年7月7日(月)から  
平成15年7月11日(金)まで〔午後5時必着〕

4 出願手続 略

5 選抜方法

入学者の選抜は、学力検査、面接、成績証明書及び健康診断の結果を総合して行う。

なお、国費外国人留学生は、日本国(文部科学省)へ申請時に提出した書類を審査し、学力検査及び面接を免除する。

学力検査・面接期日

第1日 平成15年8月25日(月)

第2日 平成15年8月26日(火)

学力検査科目及び日時

日時	8月25日(月)			8月26日(火)
	10:00~12:00	13:00~17:00		10:00~
科目	外国語科目	専 門 科 目	選 択 科 目 *注	面 接
専攻名	科目	必須科目		
機械システム工学専攻	英語		材料力学、機械力学 熱力学、流体工学 機械製作学、制御工学 (6科目のうち2科目選択)	個人
電気電子工学専攻	英語	電気磁気学 電気回路		
情報システム工学専攻	英語		離散数学、コンピュータアーキテクチャ データ構造とアルゴリズム (3科目のうち1科目選択) 工業数学(線形代数、フーリエ解析) 知識工学、人工知能基礎論 情報符号理論、制御工学 ディジタル画像処理、C/C++プログラミング*注 (7科目のうち1科目選択) (合計2科目選択)	面接
化学システム工学専攻	英語	物理化学 有機化学		
機能材料工学専攻	英語		材料有機化学、無機材料化学 材料物理化学、材料分析化学 電子材料物性、金属材料物性 (6科目のうち1科目選択)	
土木開発工学専攻	英語		構造力学、水理学 土質工学、応用物理学*注 (4科目のうち2科目選択)	

全専攻とも筆記用具のほか、定規及びコンパスを持参してください。  
全専攻とも電卓を使用を認めるので持参してください。  
各専攻の指定する科目を出願時に選択してください。  
CまたはC++どちらか一方の言語で解答してください。継承は除きます。  
(情報システム工学専攻)  
雪氷、凍土及び気象にかかわる物理現象から出題します。(土木開発工学専攻)

健康診断 略

6 合格発表

平成15年9月10日(水)午後5時予定

7 入学時に要する経費

入学料 282,000円(予定額)

授業料(前期分) 260,400円

【年額520,800円】(予定額)

入学時及び在学中に納付金の改定が行われた場合には、改訂時から新たな納付金が適用される。

国費外国人留学生は、入学料、授業料とも不要。

平成16年度大学院工学研究科  
博士後期課程学生募集要項  
社会人選抜・外国人留学生募集要項

1 専攻別募集人員

専 攻 名	募集人員
システム工学専攻	7人
物質工学専攻	5人
計	12人

2 出願資格

次のいずれかに該当する者

修士の学位を有する者

外国において修士の学位に相当する学位を授与された者及び平成16年3月までに修士の学位に相当する学位を授与される見込の者

文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号参照）

本学大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で24歳に達した者

本研究科において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

注) 出願資格 及び により出願する者は、出願資格の事前審査を行う

3 願書受付期間

平成15年7月7日(月)から

平成15年7月11日(金)まで〔午後5時必着〕

4 出願手続 略

5 選抜方法

入学者の選抜は、面接（口述試験）、修士論文（又はそれに代わる論文等）についての審査、出身大学・大学院の成績証明書及び健康診断の結果を総合して行う。

なお、国費外国人留学生は、日本国（文部

科学省）へ申請時に提出した書類を審査し、面接を免除する。

面接期日

平成15年8月27日(水) 午前10時から

健康診断 略

6 合格発表

平成15年9月10日(水)午後5時予定

7 入学時に要する経費

入学料 282,000円（予定額）

授業料（前期分）260,400円

【年額520,800円】（予定額）

入学時及び在学中に納付金の改定が行われた場合には、改訂時から新たな納付金が適用される。

国費外国人留学生は、入学料、授業料とも不要。

平成16年度編入学試験（推薦による選抜）の実施

平成16年度編入学試験（推薦による選抜）が実施されました。

各学科別の合格者数等は次表のとおりです。

学 科 名	募集人員	志願者	受験者	合格者
機械システム工学科	10	0	0	0
電気電子工学科		3	3	3
情報システム工学科		1	1	1
化学システム工学科		0	0	0
機能材料工学科		0	0	0
土木開発工学科		0	0	0
合 計		4	4	4

## 平成15年度大学院工学研究科 秋季入学学生募集の実施について

本学大学院では、入学機会の複数化を図ること、学年歴の異なる外国の大学からの円滑な学生の受け入れを可能とすることを目的として、秋季入学（10月入学）制度を新設しました。本制度に係わる入学試験の概要を以下に示します。

	博士前期課程	博士後期課程
専攻名	機械システム工学専攻 電気電子工学専攻 情報システム工学専攻 化学システム工学専攻 機能材料工学専攻 土木開発工学専攻	システム工学専攻 物質工学専攻
標準修業年限	2年（優れた業績を上げた者については短縮可能）	3年（優れた業績を上げた者については短縮可能）
選抜の種類	一般選抜・社会人選抜・ 外国人留学選抜	
募集人員	各専攻とも若干人	
出願資格	大学を卒業した者 又は平成15年9月 までに卒業見込み の者等	修士の資格を有する者 又は平成15年9月 までに取得見込み の者等
出願期間	平成15年7月7日(月)から 7月11日(金)まで	
試験日	学力試験 8月25日(月) 面接試験 8月26日(火)	面接試験 8月27日(水)
選抜方法	学力検査・面接・ 成績証明書・健康 診断の結果を総合 して行う。 社会人選抜は、学 力試験を課さない が志望調書・研究 計画書・職務経歴 書の提出を要する。	面接・修士論文及 び成績証明書等の 審査・健康診断の 結果を総合して行 う。
合格発表	平成15年9月10日(水)	
入学時期	平成15年10月	



## = 研究助成 =

## 平成15年度 日本科学協会海外発表促進助成金交付決定

(総務課)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付金額
機能材料工学科	助 手	川村みどり	FABRICATION OF Si/Ge NANORING STRUCTURES BY MBE	千円 139

## 平成15年度 実吉奨学会研究助成金交付決定

(総務課)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付金額
電気電子工学科	助教授	川村 武	単調性・単調化の手法と計算代数に基づく線形制御系のロバスト安定性解析	千円 520

## 平成15年度民間等との共同研究の受入状況

(総務課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民間機関等名
化学システム工学科	教 授	小林 正義	個体細孔中の水分子の構造・挙動	チヨダウーテ(株)
機械システム工学科	教 授	田牧 純一	多結晶ダイヤモンドを含む新規固定砥粒工具およびバインダレス超硬の最適加工方法の開発	住友石炭鉱業(株)
機械システム工学科	教 授	佐々木正史	自然エネルギーハウスの実用化研究	(株)光栄建設
機械システム工学科	教 授	佐々木正史	環境対応プラインの実用化研究	シヨ－ワ(株)
地域共同研究センター	助教授	有田 敏彦	動物性廃棄物(血・脂肪等)の堆肥化による農地等への利用とコンポスターへの影響調査研究	北見工業技術センター
留学生教育相談室	講 師	菅野 亨	高機能材料創製を目的としたペーパースラッジ炭化物の細孔構造制御	(株)リープス
土木開発工学科	教 授	鈴木 輝之	寒冷地における土木構造物の凍害対策に関する研究	北見建設業協会
情報システム工学科	教 授	藤原 祥隆	障害予測管理システム調査研究	(株)エストコスモ
土木開発工学科	教 授	鈴木 輝之	寒冷地構造物におけるエコスラグの有効利用に関する研究	日本産業機械工業会
留学生教育相談室	教 授	山岸 喬	オホーツク産食素材による高機能食品の創生	(株)はるにれバイオ研究所
地域共同研究センター	助教授	有田 敏彦	地域の産学連携による新規産業分野創造の可能性調査研究	(有)シー・エス・プランニング
電気電子工学科	教 授	谷本 洋	アナログ高周波回路の基本検討	(株)半導体理工学研究センター

平成15年度累計 45件

## 平成15年度受託研究の受入状況

(会 計 課)

所 属	職 名	研究担当者	研究 題 目 及 び 研 究 期 間	委 託 期 間	所 要 経 費
化学システム工学科	教 授	鈴木 勉	リグニン系機能性炭素材料の創製 平成15年5月～平成16年3月	科 学 技 術 振興事業団	520,000 <sup>円</sup>
機器分析センター	助 教 授	南 尚嗣	平成15年度GEMS/Waterベースライン モニタリング 平成15年5月～平成16年2月	独立行政法 人国立環境 研 究 所	5,200,000
機械システム工学科	教 授 助 教 授 技 官 教 務 職 員	坂本 弘志 森谷 優 小畑 芳弘 井 和紀	吹雪障害防止のための翼型誘導版を有す る新型高性能防雪柵の開発 平成15年6月～平成16年3月	北見工業 技術センタ ー運営協会	1,733,550

平成15年度計 3件

## 平成15年度奨学寄附金の受入状況

(会 計 課)

所 属	職 名	研 究 者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄 附 金 額
情報システム工学科	教 授	藤原 祥隆	「知的情報処理に関する研究」に対する研究助成	リコーシステム開発(株)	510,000 <sup>円</sup>
地域共同研究センター	センター長	鈴木 輝之	地域共同研究センター活動事業費に対する助成	地域共同研究センター長 (共同研究推進セミナー実行委員会)	400,000
地域共同研究センター	センター長	鈴木 輝之	地域共同研究センター産学連携コーディネート活動事業に対する助成	地域共同研究センター長 (全国中小企業団体中央会)	82,293
	学 長	常本 秀幸	学生に対する奨学交付金	佐藤充典	300,000
機械システム工学科	教 授	二俣 正美	「環境対応皮膜の開発に関する研究」に対する研究助成	北辰土建(株)	500,000
土木開発工学科	助 教 授	櫻井 宏	「寒冷地のコンクリートの品質と施工向上に関する研究」に対する研究助成	雄 武 レミコン(株)	300,000
機能材料工学科	教 授	青木 清	「貴金属ろう材料の研究」に対する研究助成	田中貴金属工業(株)	500,000
電気電子工学科	助 教 授	菅原 宣義	「雷に関する工学研究」に対する研究助成	北海道電力(株)	1,000,000
土木開発工学科	教 授	大島 俊之	「道路構造の防災対策の検討」に対する研究助成	北海道道路管理技術センター	300,000
土木開発工学科	教 授	鈴木 輝之	「道路構造の防災対策の検討」に対する研究助成	北海道道路管理技術センター	300,000

所 属	職 名	研 究 者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額 <sup>円</sup>
化学システム工学科	教 授	小林 正義	「化学・物質技術による汚水処理の開発」に対する研究助成	(株)エース・クリーン	1,700,000
化学システム工学科	教 授	小林 正義	「固体細孔中の水分子の構造・挙動に関する研究」に対する研究助成	チヨダウーテ(株)	550,000
留学生教育相談室	講 師	菅野 亨	「天然ゼオライトの高度利用に関する研究」に対する研究助成	(株)共成レンテム	500,000
機能材料工学科		学 科 長	「工学研究」に対する研究助成	佐藤充典	200,000
化学システム工学科	助教授 助 手	高橋 行雄 沖本 光宏	「工学研究」に対する研究助成	(株)金印わさび オホーック	500,000
機器分析センター	助教授	南 尚嗣	「次世代鉄鋼迅速オンサイト分析の実用化の研究」に対する研究助成	日 本 鉄鋼協会	900,000

平成15年度累計 20件

= 人事 =

## 海 外 渡 航

外国出張

(総務課)

所 属	職 名	氏 名	渡 航 目 的 及 び 渡 航 先 国	期 間
未利用エネルギー研究センター	教 授	庄 子 仁	韓国海洋研究開発研究所にて将来の南極共同研究に関する研究打合せ (大韓民国)	15.5.20 ~ 15.5.22
土木開発工学科	教 授	榎 本 浩 之	国際学会参加及び発表 (アメリカ合衆国)	15.5.25 ~ 15.5.31
機械システム工学科	助 教 授	閻 紀 旺	全米科学財団材料除去加工に関するワークショップ出席 (アメリカ合衆国)	15.6.7 ~ 15.6.14
機能材料工学科	助 手	川 村 みどり	ユーリッヒ研究所にて半導体ナノ構造の作製に関する研究打合せ及びストラスプール会議場にてE-MRS Spring meetingに出席及び論文発表 (ドイツ連邦共和国、フランス共和国)	15.6.4 ~ 15.6.14

所 属	職 名	氏 名	渡 航 目 的 及 び 渡 航 先 国	期 間
電気電子工学科	助 教 授	菅 原 宣 義	タンペレ工業大学主催国際学会NORD-ISにて研究発表及び情報交換 (フィンランド共和国)	15.6.8 ~ 15.6.14
土木開発工学科	教 授	榎 本 浩 之	海水観測予備調査及び研究打合せ (アメリカ合衆国)	15.6.8 ~ 15.6.17
電気電子工学科	助 教 授	村 田 年 昭	国際会議PESC'03にて論文発表 (メキシコ合衆国)	15.6.12 ~ 15.6.21
情報システム工学科	助 教 授	榮 坂 俊 雄	11th Mediterranean Conference on Control and Automation出席及び発表 (ギリシャ共和国)	15.6.16 ~ 15.6.21
土木開発工学科	助 教 授	山 下 聡	第1回日米地盤力学における実験、モデル化と数値解析に関するワークショップ出席及び研究発表 (アメリカ合衆国)	15.6.25 ~ 15.7.1
留学生教育相談室	教 授	山 岸 喬	第44回アメリカ生薬学会参加 (アメリカ合衆国)	15.7.11 ~ 15.7.21
電気電子工学科	教 授	吉 田 公 策	第26回電離気体現象国際会議にて発表および情報収集 (ドイツ連邦共和国)	15.7.13 ~ 15.7.22
情報処理センター	助 教 授	青 山 茂 義	国際会議「時間非対称量子論：共鳴理論」出席及び講演 (ポルトガル共和国)	15.7.21 ~ 15.7.27

## = 受賞 =

### 原田建治助手 ホログラフィックディスプレイ研究会 「HODIC 鈴木・岡田賞」を受賞

(情報システム工学科)

情報システム工学科原田建治助手は、本年5月東京で開催されたホログラフィックディスプレイ研究会(HODIC)において、平成14年度HODIC鈴木・岡田賞(技術部門)を授与されました。HODIC鈴木・岡田賞とは、ホログラム分野で活躍された故・鈴木正根先生、故・岡田勝行先生の遺志を受け、年に1回ホログラム分野で活躍している技術及び芸術分野の個人又はグループ、各1組に贈られる名誉ある賞です。対象となった研究は「アゾベンゼン高分子薄膜を用いた表面レリーフ型ホログラム記録」であり、本研究成果がホログラムの普及に貢献する

ことが認められたものです。

ホログラムとは、「完全な3次元情報を記録・再生できる写真」を意味し、観賞用やセキュリティ用途に幅広く応用されています。ホログラムを記録する材料には、従来の写真フィルムと同じ銀塩感光材料等が使用されています。原田助手は、アゾベンゼン高分子を用いたホログラム記録に関する研究を進めてきました。アゾベンゼンは昔から色素として用いられていましたが、近年では光学材料としても注目されています。アゾベンゼン高分子にホログラムを記録するのは初めての試みでしたが、従来のホログ

ラム記録材料と異なる特徴を有することが分かってきました。この新しいホログラムは、照射する光パターンが表面に凹凸として記録され、書き換えも可能です。また、明るい場所での記録が可能で、現像処理を必要としません。最大の特徴は、材料が併せ持った機能であり、これを利用することで電圧変調や波長変換が可能になります。現在までに、電圧を印加すると再生強度が変調できる「電圧可変ホログラム」、目に見えない赤外線を可視光に波長変換して再生する「波長変換ホログラム」、個人情報等をホ

ログラムとして名刺に載せる「ホログラム名刺」等の試作に成功しました。本年度は文部科学省科学研究費補助金若手研究(B)「アゾベンゼン高分子薄膜を用いたホログラム窓の開発」が採択され、ホログラムを利用して窓の採光を向上させる「環境にやさしいホログラム」の研究もスタートしています。

栄えある「HODIC鈴木・岡田賞」に本学の教官が輝いたことを、慶びとともにここに報告申し上げますと同時に、原田先生のますますの研究の発展をご期待いたします。

## 木曾明子先生エイブルメディア「金杯」賞を受賞

(共通講座)

本学元共通講座教授木曾明子先生(2001年退官)の論文「エウリピデス以降の「機械仕掛けの神」に何が起こったか?」(“What Happened to Deus ex Machina After Euripides?”)が西洋古典学研究所(Classics Technology Center on the Web)主催のエイブルメディア「金杯」賞(AbleMedia's annual Gold Chalice Award)を受賞しました。

同賞はWeb上に開かれている西洋古典学の投稿フォーラムにおいて、年間の最良論文を決定するもので、1999年から毎年2、3名の世界的学者が受賞しています。木曾先生の論文は2002年度西洋古典学における世界最高の栄誉

を得たこととなります。

木曾先生の論文は、ギリシア悲劇にしばしば登場し、物語を大団円に導く「機械仕掛けの神」(Deus ex Machina)を扱ったもので、ギリシア劇において消滅し、その後のローマ劇には取り入れられなかったという説が圧倒的であるが、現代劇に至るまで、その名残のようなものが存続していたようにも見受けられる、という内容です。その足跡を、主にエウリピデス後期の演劇に関して辿った研究です。

本論文は、木曾先生が本学在職中に発表、投稿されたもので、Webサイトに掲載中です。  
(<http://ablemedia.com/ctcweb/index2.html>)

= 学会等 =

## 電気学会半導体電力変換・産業電力電気応用 合同研究会開催

(電気電子工学科)

電気学会半導体電力変換・産業電力電気応用合同研究会が本学を会場に、6月6日(金)、7日(土)の両日開催されました。発表論文数は23件で、参加者は初日37名、2日目25名と盛会で、一件あたり講演20分、質問5分の時間をオーバーする最新のパワーエレクトロニクス分野の研究、開発に対して熱心な討論が行われました。招待講演では北大名誉教授、本学地域共同研究センター客員教授であり道立紋別流水科学センター所長の青田昌秋氏が講演、「白い海、凍る海」の題目で流水のきしむ音をバックに、スライドを使ってオホーツクの海の美しい映像が紹介され、遠くは福岡からの参加者も感嘆の声を

あげていました。懇親会では、和気藹々とした雰囲気の中、来年は、九州、宮崎での再会を約束して、散会しました。



招待講演「白い海、凍る海」の講演風景

= 諸報 =

## 父母との懇談会（春季）開催

(教務課)

父母との懇談会（春季）を5月11日(日)北海道大学学術交流会館を会場として、道央・道南地域に在住の学部2・3・4年次及び大学院博士前期課程2年次学生の父母を対象として実施しました。

当日は、123組181人の父母が参加し、常本学長の挨拶をはじめ高橋副学長の全体説明に続いて、各学科、専攻に分かれて個別面談が行われました。

個別面談では、各学科の教官が対応し、修学状況、就職問題等について質問が出され、熱心なやりとりが交わされました。

また、個別面談までの待ち時間には常本学長、高橋副学長による父母との質疑等の時間が設け

られ、父母からはFDの取組状況及び独立行政法人化へ向けて社会貢献としての産学連携への取組状況など、多くの質問等が出され活発な意見交換が行われました。



全体説明において挨拶する常本学長

## 第34回 北苑祭

(学 生 課)

今年で34回目となる学生寮『北苑寮』の恒例行事『北苑祭』が開催された。

今年のテーマは「世界に一つだけの寮祭(1にならなくてもいい)」で、初日の開会式では共通講座の柳助教授により「トレーニングの方法と効果・目標を高く掲げることの実効」等についてスポーツの実験データが裏付ける興味深い講演がなされた。



13日の「白ふん行列」は、朝から生憎の雨も15時の出発時には上がり、1・2年生が担ぐ太鼓御輿が「ワッショイ!ワッショイ!。」と威勢良く市内に繰り出した。

最終目的地の市役所前小公園では、女子寮生を含む先輩寮生の「餅つき」が12時から始まり、道行く市民に出来立ての餅が配られていた。

### 第34回 北苑祭日程

6月12日(木)	開 会 式	16:30~17:00
	講 演 会	17:00~20:00
	オリエンテーリング	20:00~23:00
13日(金)	白ふん行列	15:00~17:00
	餅 つ き	12:00~17:00
14日(土)	早朝卓球大会	9:00~12:00



## 平成14年度奨学・奨励金授賞式

(学 生 課)

学部学生の学習奨励を目的に設けられた、本学奨学基金による奨学・奨励金授賞式が6月20日第一会議室にて関係教職員、受賞学生約40名の出席の下に実施され、1年次から3年次の成績優秀者18名が受賞しました。

授賞式では、常本学長から受賞者一人一人に賞状と副賞が渡され、祝辞が述べられました。最後に受賞者を代表して加藤智規君（化学システム工学科4年次）からお礼の言葉がありました。

(受賞学生：年次は昨年度のものによる)

学 科	1年次	2年次	3年次
機械システム工学科	黒 田 信 介	渡 邊 俊 介	山 本 恵 輔
電気電子工学科	椿 健 司	古 崎 雅 人	橋 伸 一
情報システム工学科	浅 野 優	今 井 卓	宮 本 美智子
化学システム工学科	今 井 祐 二	磯 谷 明 子	加 藤 智 規
機能材料工学科	加 納 弘 樹	三 国 直 弘	蝦 名 大 佑
土木開発工学科	岡 垣 光 祐	山 口 真 史	米 田 英 治



## 「平成14年度教育優秀者賞」表彰式及び 「教育優秀者」による公開授業を実施

(教務課)

平成14年度に実施した学生による授業評価の結果、授業への準備、熱意、指導等に顕著な教育優秀者7名(各学科6名、共通講座1名)を選考しました。

6月24日、「平成14年度教育優秀者賞」の表彰式が行われ、今年で2回目となるこの賞には、選ばれた7名に学長からのねぎらいの言葉の後、一人一人に盾が授与されました。

受賞者を代表し、電気電子工学科の谷藤教授から「より魅力ある授業をめざしてまい進したい」との決意とお礼の言葉がありました。

なお、受賞された方々は、以下のとおりです。

機械システム工学科	助教授	鈴木聡一郎
電気電子工学科	教授	谷藤 忠敏
情報システム工学科	教授	亀丸 俊一
化学システム工学科	助教授	高橋 行雄
機能材料工学科	助教授	阿部 良夫
土木開発工学科	助教授	山下 聡
共通講座	助教授	鳴島 史之

また、同賞受賞者による授業を6月26日から7月18日までの間、教職員と報道機関に対して公開しました。



学長を中央に「平成14年度教育優秀者賞」受賞者

## 総合研究棟が完成

(施設課)

昨年の8月から附属図書館横で工事を進めていた「総合研究棟」が6月30日をもってしゅん工しました。建物規模は、鉄骨鉄筋コンクリート造り7階建て、延べ面積5,496㎡、高さ31.5mの規模を誇り、本学随一の高層建築物となっています。

この「総合研究棟」は大学院関係施設の狭隘化解消と共同利用の実験室からなる総合実験施設と未利用エネルギー研究センター、ソフトウェア開発及びロボット技術開発による自動除雪ロボットや融雪機の開発、高齢化社会に対応する在宅支援技術開発等の研究を行うサテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー（以下、SVBL）との複合建物として建設されました。

建物正面に「未来、創造、挑戦」の願いが込められたオホーツクブルー色の3本のラインが空に向かって伸びており、キャンパス外遠方からでも一目で認識できる、本学にとっての新た

な象徴的建物と言えるでしょう。

主な施設内容としては、1階に受付、エントランスホール、SVBL実験室、NMR解析室、液体窒素室、電気室、機械室、2階は、シンポジウム・公開講座等にも利用可能な120席を有する多目的講義室と未利用エネルギー関連の実験室、3・4階はSVBL関連実験室、5階は期限を設定し公募により貸し付ける共用実験室、6・7階が大学院実験室を設置してあります。

また、3階と6階には学生が休憩やゼミ等にも利用できるように60㎡と90㎡の広さのリフレッシュルームを設け、屋上には太陽エネルギー等の実験装置を設置できるスペースを設けてあります。

「総合研究棟」の活用により、本学が「人を育て、科学技術を広め、地域に輝き、未来を築く大学」としてさらに発展することが期待されます。



1階エントランスホール



1階SVBL実験室1



3階コラボレーション研究室2



3階ハイドレート物理実験室

= 規程 =

## 北見工業大学電気工作物保安規程の一部を改正する規程

平成15年7月3日  
北工大達第23号

北見工業大学電気工作物保安規程（昭和47年北工大達第15号）の一部を次のように改正する。

第1条中「第74条第3項において準用する法第52条第1項」を「第42条第1項」に改める。

第13条第3項中「しや断器及び開閉器」を「主しや断器及び区分開閉器」に改める。

第17条中「財産上の責任分界である本学東側及び北側昭和通り電柱に設置した気中開閉器の負荷側端子」を「引込柱に設置した区分開閉器の一次側接続点」に改める。

別表第1、別表第2、別図第1の1及び別図第1の2を次のように改める。

### 附 則

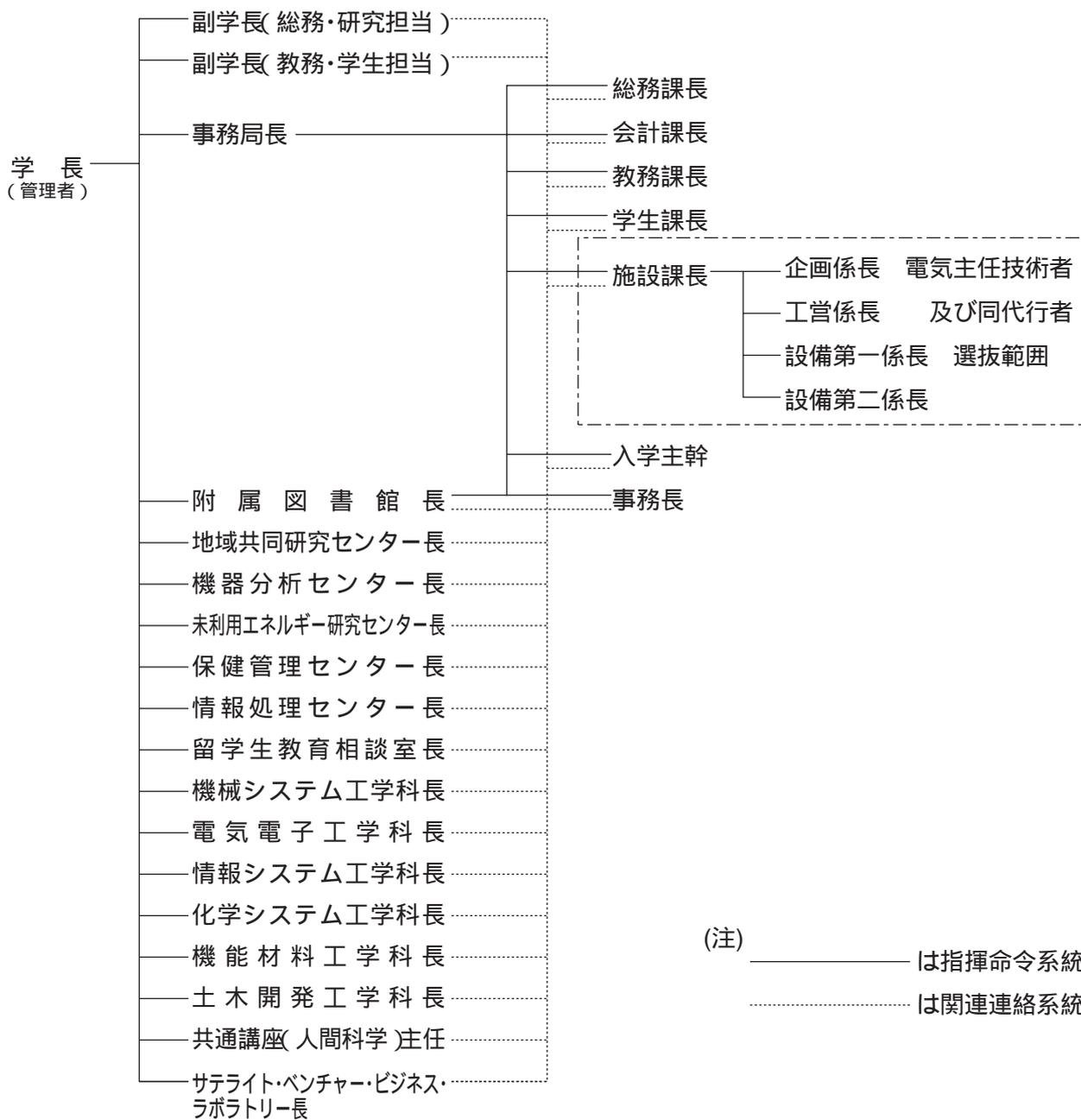
この規程は、平成15年7月3日から施行し、平成15年7月1日から適用する。

### 改正理由

総合研究棟の設置並びに電気工作物の工事、維持及び運用の保安に関する事項をより適切なものとするための所要の改正

別表第1( 第4条関係 )

電気工作物保安業務指揮命令系統及び連絡系統組織構成



別表第2(第10条第1項関係)

電気設備巡視、点検、測定及び手入れ基準

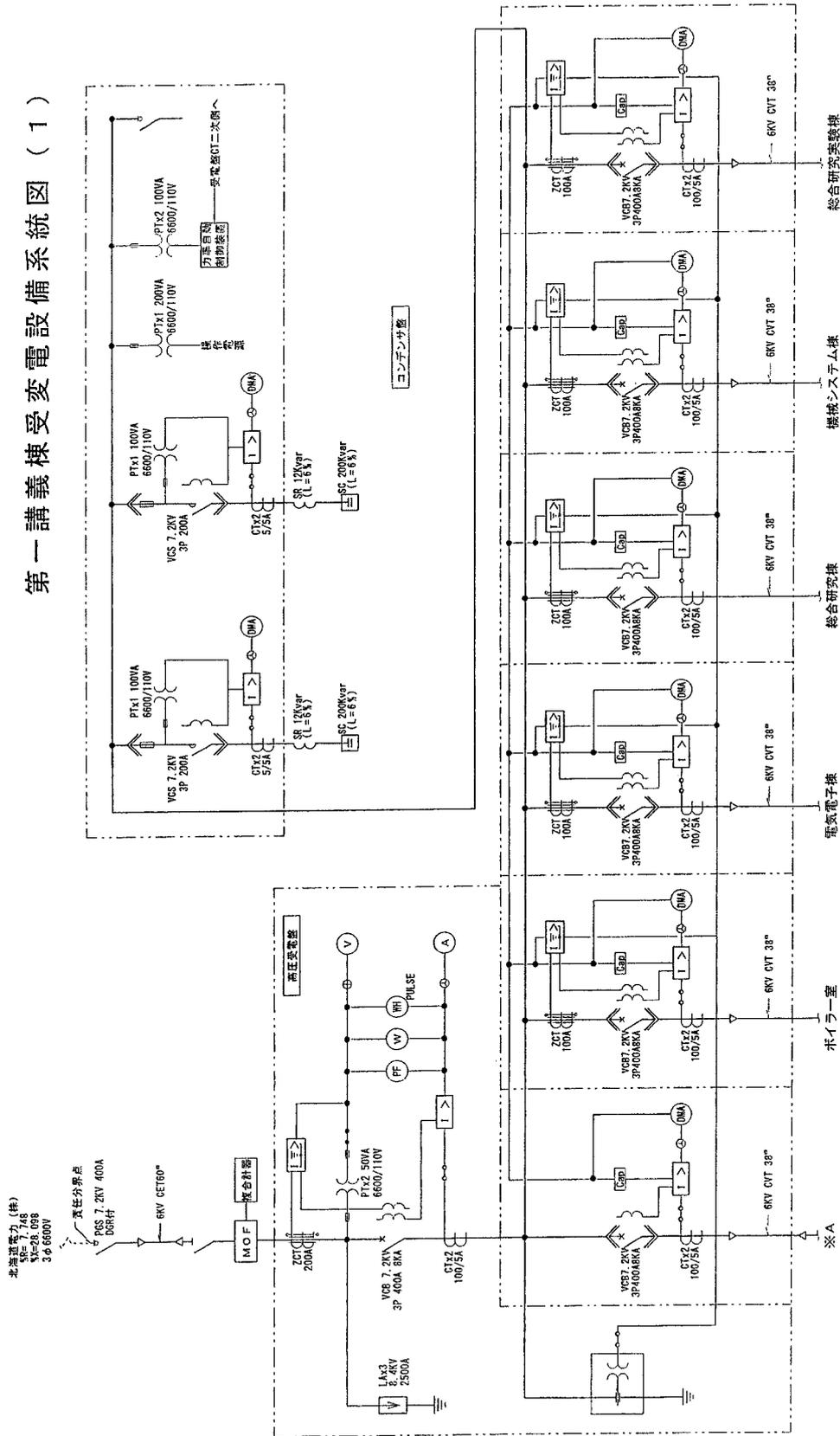
対象	項目		日常巡視点検手入れ		定期巡視点検手入れ		精密点検手入れ		測定	
	項目	周期	点検箇所ねらい	周期	点検箇所ねらい	周期	点検箇所ねらい	周期	測定項目	
引込開閉器	1	1月	異物接近,接触の有無	1	1年	函体腐食,汚損,変形の確認。	1	1年	絶縁抵抗測定	
	2	1月	受と歯の接触,過熱	2	1年	操作確認	2	1年	継電器試験	
	3	1月	汚損,異物付着	3	1年	接地線接続部点検	1	1年	絶縁抵抗測定	
負荷開閉器 (DS,AS) (LBS,VS)	1	1月	外観点検	1	1年	受と刃の接触,過熱	1	1年	絶縁抵抗測定	
	2	1月	変形,変色の有無	2	1年	緩み,荒れ具合	2	1年	動作試験(継電器と連動)	
	3	1月	指示,点灯	3	1年	各部の損傷,腐食,過熱,発錆,変形,緩み	1	1年		
	4	1月	その他必要事項	4	1年	操作具台,機構付属装置の状態	2	1年		
	5	1月		5	1年	真空度の確認	1	1年		
しゃ断器 (VCB)	1	1月	異物接近,接触の有無	1	1年	母線の高さ,たるみ	1	1年	絶縁抵抗測定	
	2	1月	変形,変色の有無	2	1年	他物との隔離距離,腐食,損傷,過熱,緩み	1	1年		
	3	1月	接続点変形,変色の有無	3	1年	接続部分クランプ類の腐食,損傷,変形,緩み	1	1年		
高圧受電	1	1月	本体の外部点検,漏油汚損,振動音響温度	1	1年	母線の損傷,腐食,発錆,緩み,汚損,油量	1	1年	絶縁抵抗測定	
	2	1月	外部の損傷,腐食,発錆,変形,汚損,温度,音響,ヒューズの異常その他必要事項	2	1年	絶縁油の色相,臭気端子の変色など	2	1年	接地抵抗測定	
	3	1月	外部の損傷,腐食,発錆,緩み,汚損	3	1年	接地線接続部点検	3	3年	絶縁油耐圧試験	
計器用変成器	1	1月	外部の損傷,腐食,発錆,変形,汚損,温度,音響,ヒューズの異常その他必要事項	1	1年	各部の損傷,腐食,発錆,緩み,汚損,変形,されつ,汚損	1	1年	絶縁抵抗測定	
	2	1月	外部の損傷,されつ	2	1年	ヒューズの異常	2	1年	接地抵抗測定	
避雷器	1	1月	外部の損傷,されつ	1	1年	接地線接続部点検	1	1年	絶縁抵抗測定	
	2	1月	緩み,汚損	2	1年	外部の損傷,されつ,緩み,汚損,コンパウトの異常	2	1年	接地抵抗測定	

電気設備巡視、点検、測定及び手入れ基準

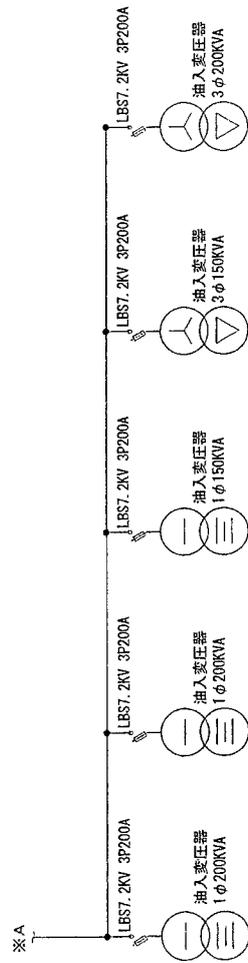
対象	項目		日常巡視点検手入れ		定期巡視点検手入れ		精密点検手入れ		測定項目	
	数量	内容	周期	点検箇所ねらい	数量	内容	周期	点検箇所ねらい	数量	内容
配電盤	1	計器の異常、表示灯の異常	1月	計器の異常、表示灯の異常	1	裏面配線のじんあい汚損、過熱、緩み、断線	2年	各部の損傷、過熱、緩み、断線、接触、脱落	1	絶縁抵抗測定
	1	操作、切換閉閉器等の異常その他必要事項	1月	操作、切換閉閉器等の異常その他必要事項	2	接地線接続部点検	2年	端子配線符号	2	接地抵抗測定
	1	本体の外部点検、変形、変色の有無	1月	本体の外部点検、変形、変色の有無	1	各部の損傷、腐食	1年		3	保護継電器の動作特性
配電設備(屋外電線路を含む)	1	断路器や断器閉器類	1月	受電用設備と同じ	1	接地線接続部点検	1年		4	計器校正シケンス試験
	1	配電用変圧器	1月	受電用設備と同じ	1	各部の損傷、腐食	1年		1	絶縁抵抗測定
	1	電線及び支持物	1月	電線の高さ及び他の工作物、樹木との距離	1	受電用設備と同じ	1年			受電用設備と同じ
ケーブル	1	ヘッド、接続箱、分岐箱等接続部の過熱、損傷、腐食	1月	ヘッド、接続箱、分岐箱等接続部の過熱、損傷、腐食	1	電柱、腕木、がいし、支線、支柱、保護網等の損傷腐食	1年			受電用設備と同じ
	2	布設部の無断掘削	1月	布設部の無断掘削	2	電線取付け状態	1年		1	絶縁抵抗測定
	3	標識作物との距離	1月	標識作物との距離	1	ケーブル腐食、きれつ、損傷	1年		1	絶縁抵抗測定
電気機具類	1	随時	使用者、運転者が運転、動作状態について点検注意する。					1	絶縁抵抗測定	
保護機器、工具類、安全用具				1年						
点検予備品										
その他										

別図第1の1(第18条関係)

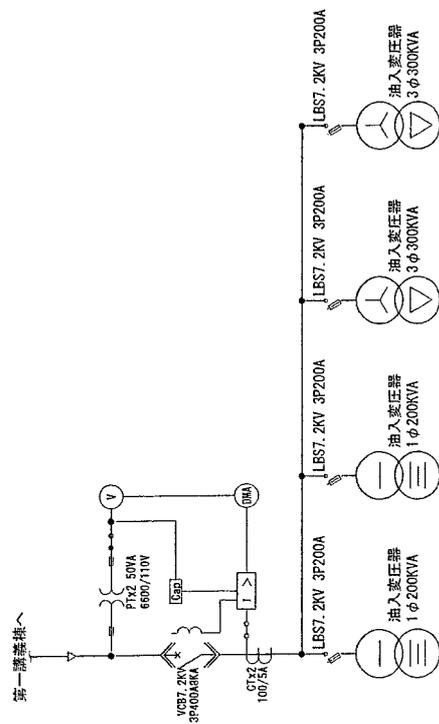
第一講義棟受変電設備系統図(1)



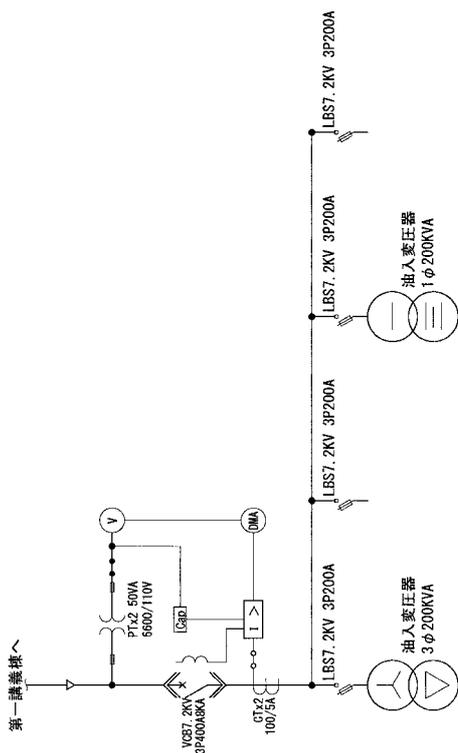
第一講義棟受変電設備系統図 ( 2 )



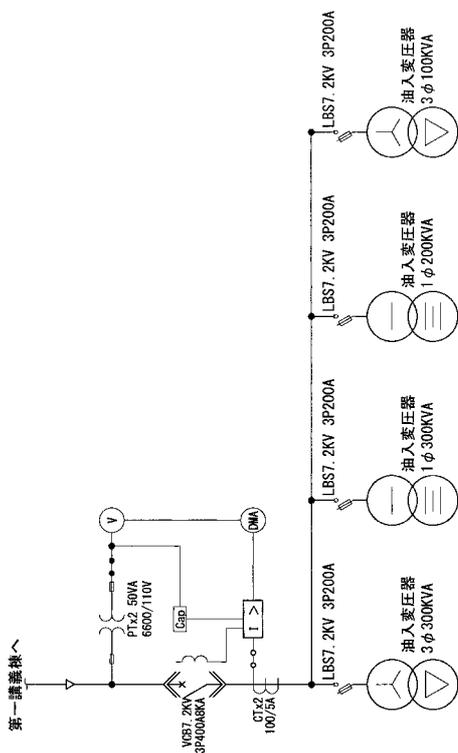
総合研究棟受変電設備系統図



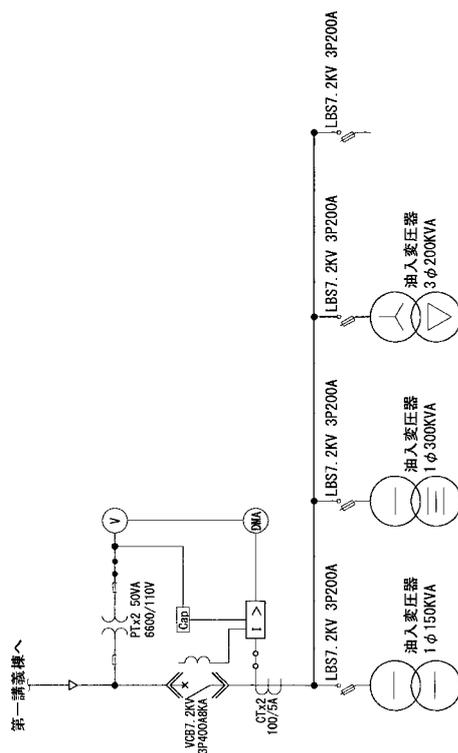
ボイラー室受変電設備系統図



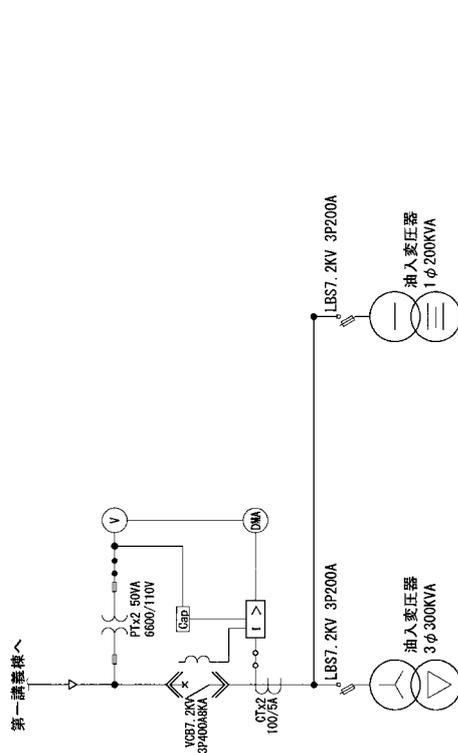
機械システム棟受変電設備系統図



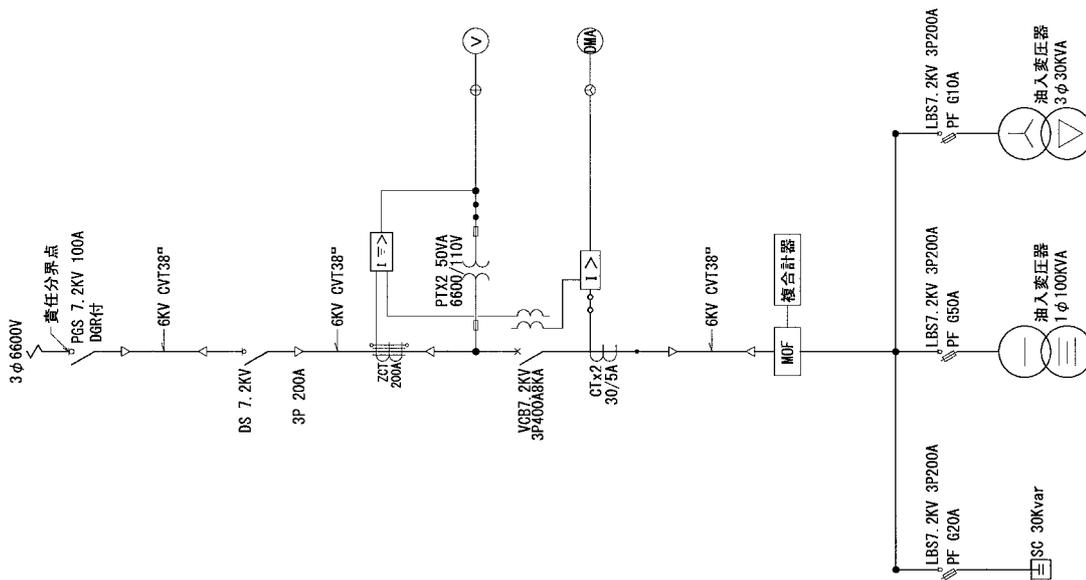
電気電子棟受変電設備系統図



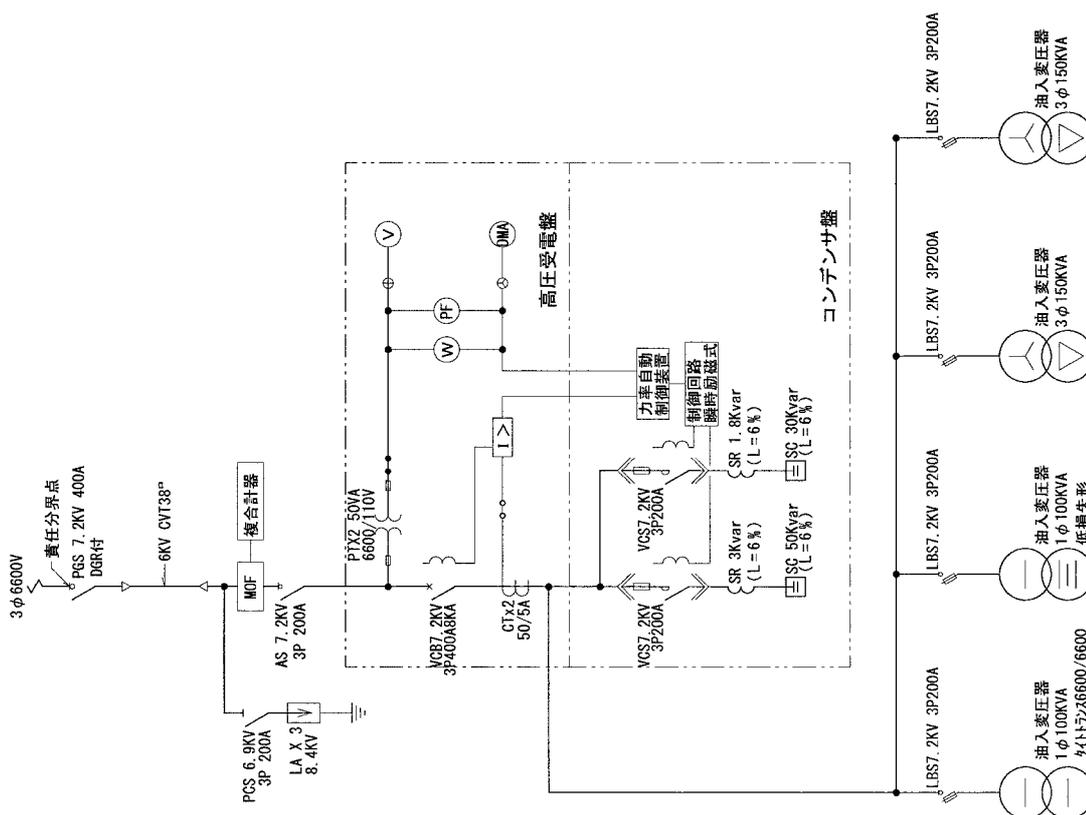
総合研究実験棟受変電設備系統図



学生寮受変電設備系統図



地域共同研究センター受変電設備系統図





## = 日誌 =

(総務課)

- |       |  |       |   |
|-------|--|-------|---|
| 5月 6日 | 学生定期健康診断(～9日)  | 6月 2日 | 編入学(推薦)願書受付(～5日)                          |
| 7日    | 総務委員会  | 3日    | 人事委員会                                     |
| 8日    | 単位互換に関する4大学打合会   | 4日    | 総務委員会                                     |
| 9日    | 第16回独立行政法人化問題ワーキンググループ<br>地域共同研究センター産学官連携推進員・協力員会議               | 5日    | 地域共同研究センター産学官連携推進員会議                      |
| 11日   | 春季父母との懇談会(札幌)  | 6日    | 電気学会半導体電力変換・産業電力電気応用合同研究会(～7日)            |
| 12日   | 第8回大学改革特別委員会<br>地域共同研究センター第1回特別講演会                               | 9日    | 施設専門委員会                                   |
| 13日   | 第10回再編・統合問題ワーキンググループ<br>地域共同研究センター兼任教官会議                         | 10日   | 教務委員会<br>安全管理・環境対策委員会<br>地域共同研究センター兼任教官会議 |
| 15日   | 附属図書館委員会   | 11日   | 広報専門部会<br>編入学(推薦)試験                       |
| 19日   | 教務委員会  | 12日   | 地域共同研究センター第3回特別講演会<br>第34回北苑祭(～14日)       |
| 20日   | 入学者選抜委員会<br>学生委員会  | 13日   | 第12回再編・統合問題ワーキンググループ                      |
| 21日   | 第662回教授会<br>第135回研究科委員会  | 16日   | 会計検査院実地検査(～18日)                           |
| 23日   | 第9回大学改革特別委員会<br>学術振興・国際交流基金「外国人留学生受入援助奨学金」<br>及び「博士後期課程学生奨学金」授与式 | 17日   | 入学者選抜委員会                                  |
| 25日   | 工業英語能力検定試験実施   | 18日   | 第663回教授会<br>編入学(推薦)合格発表                   |
| 28日   | 第11回再編・統合問題ワーキンググループ   | 19日   | 第18回独立行政法人化問題ワーキンググループ                    |
| 29日   | 地域共同研究センター第2回特別講演会<br>教職員定期健康診断                                  | 20日   | 平成14年度奨学・奨励金授賞式                           |
| 30日   | 第17回独立行政法人化問題ワーキンググループ   | 24日   | 平成14年度北見工業大学教育優秀者表彰式                      |
|       |  | 25日   | 地域共同研究センター第4回特別講演会                        |
|       |  | 26日   | 編入学(学力)願書受付(～7/2)                         |
|       |  | 27日   | 地域共同研究センター第5回特別講演会                        |
|       |  | 28日   | 第41回大学祭(～29日)                             |



この学報は再生紙を使用しています。